りびんぐらいぶず　令和2（2020）年3月第1号

信心獲得（ぎゃくとく）へのお導き

◆ご讃題

◆まづおのおのの、むかしは弥陀のちかひをもしらず、(南無)阿弥陀仏をも申さずおはしまし候ひしが、釈迦･弥陀の御方便にもよほされて、いま弥陀のちかひをもききはじめておはします身にて候ふなり。もとは無明の酒に酔（え）ひて、貪欲（とんよく）･瞋恚（しんに）･愚痴（ぐち）の三毒をのみ好みめしあうて候らいつるに、仏のちかひをききはじめしより、無明の酔ひもやうやう少しづつさめ、三毒をも少しづつ好まずして、阿弥陀仏の薬をつねに好みめす身となりておはしましあふて候ふぞかし。

（Ref『親鸞聖人御消息』第二条、註釈版聖典 p739）

◆今、すべての人びとを救おうという阿弥陀仏の本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり･いかり･おろかさという三つの毒も少しずつ好まぬようになり、(南無)阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです。

（Ref『親鸞聖人御消息』第二通、現代語訳、天岸浄圓師、自照社出版 p2）。

◆信心獲得へのお導き

浄土真宗の「信」について、親鸞聖人の『御消息第二条』は「いま弥陀のちかひをもききはじめておはします」として「聞く」と表現されています（Ref 天岸浄圓師 p28）。

布教使がご法座に出講する時、浄土真宗の「信心とは、一体どんなことなのか」、その一番のスタートラインに立ち返って直截（ちょくせつ）ご案内できなくてはなりませんね。

布教使は、ご参詣の皆様とお顔を合わされた最初の瞬間に「なぜ、阿弥陀様を拝むのですか」「なぜ、仏様に頭を下げるのですか」とお訊ねになったら参詣者が「どんな反応を返して来るか予測できなくてはなりません。

逆に訊ねられたらどんな風に応えることが出来るか現実対応できなくてはなりません。

◆当院での出来事、素朴な住職の体験から

振り返りますと、

・①二年前のお逮夜参りで祖父母と住職がお内仏に合掌礼拝してお念仏したのを見ていた二歳児が「何をしているの」と訊ねました。

驚いた住職は、日頃のお育てそのままに「如来様のお喚（よ）び声を聞いているの」と応えたのです。すると二歳児は間髪を入れず「有り難う」と反応しました。

二歳児にして一体どういう感動が小さな脳裏を飛び交ったのでしょう。

如来様の問いと反応。それは不思議以外の何ものでもありません。
・②今から六年前、「自分の人生はパットしませんでした。ご本尊を拝まして欲しいと訪問した若者に「どうぞどうぞ」とお勧めすると、御尊前でそれは丁寧に拝んだ若者は、つかつかと住職に歩み寄り、「どういうご利益がありますか」と問うたのでした。
衆生に恵まれる行動の意義**「勅命（ちょくめい）に喚び覚まされる道行き」**のご案内が必要になったそのときでした。
・③今年の一月、養護老人ホームをお訪ねして皆様とご一緒に会場のお内仏様で「らいはいの歌」を上げ終わった住職（布教使）が、振り返って開口一番
「皆様、いまどこにいらっしゃいますか」とお訊ねしました。
すると、皆様方に思いがけなくも驚きのざわめきが発生しました。
この問は、何をお訊ねしたものだったのでしょう。どうお応えするのが当を得ていたのか。
「○○老人ホームにおります」では、当たり前すぎてインパクトがありませんね。
これから先私はどこにいくのかの道行きが示されていませんね。
　では、どうお応えすれば**一堂に会したみんなが幸せになるのか**。
「私達は、たった今し方『らいはいの歌』をお上げしました。「らいはいの歌」は、『十二礼』の現代語訳です。昔、当院でも前住が毎月営んでいた「日曜学校」に来ていた子供たちが、今は立派な人の子の親になった今日、ご法座でおあいしますと「昔、日曜学校で『らいはいの歌』を上げました。それは今でも覚えています」と振り返ります。
住職が前住に遇わせて戴いた瞬間でもありました。
お経様を上げること、「読経」は、本願成就して仕上がって下さった「お名号」のお徳を讃嘆させて戴く行いに他ありません。
　人間世界でお釈迦様によって讃嘆（さんだん）され、七高僧に引き継がれ、祖父母の営みで私に伝えられたお経様を上げさせて戴くことは、それはそのままお名号を讃嘆させていただく行いに他ありません。
　ご本願の物語をお聞かせ戴いた私達は、如来様の御案内の通りに、お念仏をお称え申します。「南無阿弥陀佛」と称える「南無」とは「帰命」、帰命の二文字に「如来すでに発願して衆生の行(行い)を回施したまふ発願回向のお心(仏心)が秘められてあるのです。
　ですので、深いお心はわからずとも、南無阿弥陀佛と称えるそのとき、お浄土から回施された南無阿弥陀佛が「なむあみだぶつ」と聞こえて下さることになるのです。
　そうすると、「らいはいのうた」をあげるそのとき、南無阿弥陀佛と称えるそのとき、私達は、お浄土から届けられたお慈悲の真っ只中にいるのではありませんか。
　すると、この先、どの一瞬に、何があろうとも、「私たちは、誰の人も、お浄土のお慈悲の真っ只中に迎えとられる」ということになるのではありませんか。

一堂に会して戴いた皆様方が御法話に身を乗り出してお聴聞なさったことは申すまでもありませんでした。

御法話が終って前列の皆様と握手をしつつ、「これは他のどなたさまとも握手をさせて戴いていることになるのですよ」と申し上げると、皆様の表情に安堵の思いが立ちこめます。「それでは失礼しますよ」と会場を後にするとき、皆様からも「ありがとう」のお声が帰って来たのでありました。

阿弥陀様のご本願が成就して、私の耳元で「なんまんだぶつ」と**お念仏になって働いて下さる**のは、お名号が人間のこしらえたものではなく、この私に向ってお浄土からやってくる阿弥陀如来のお喚（よ）び声だったからです。

如来様のお喚び声（方便法身の働き）は、日常生活に埋没している私に**「めざめるときだよ」**と喚びかけ、お招き下さるのです。如来様のまことのお心がお喚び声になってこの私の胸底に直接働き掛けて下さるのです。

お名号は、今生の道行きの灯火となって輝き、杖ともなり柱ともなって届いて居て下さるのです。どうか、何方様も当院で開催する月一回のお聴聞の会にご参加下さい。新型コロナでご法座にお運び戴けなくともＨＰでご法話をお聴聞なさって戴けるのです。合掌。

（ＨＰへのアクセス法）　「正覚寺　北小松」、「正覚寺　滋賀県」等で検索なさって下さい。

◆仏教壮年会お聴聞の会　五月度は新型コロナウイルス対策の為お休み致します。
◆仏教婦人会例会　　同　　上
◆降誕会（ごうたんえ）法要　本年度はお休み致します。

著作編集兼発行元（本願寺派　正覚寺内）〒520-0501 大津市北小松四五二番地
TEL077-596-0166、FAX077-596-0196 住職　堅田　玄宥